

被災者ケアで意見交換

支援団体と民生委員ら

大船渡

大船渡アクション・定例ネットワーク会議(仮設住宅入居者、在宅、避難所など)のケアを適切に行い、大船渡で孤独死、自殺者を出さない、大船渡の復興・復興に向けて活動することを目的に、市内外のNPO団体やボランティアグループなどで行われている。

3回目となったこの日は、行政や県立病院の医師、民生委員などを約40人が参加。仮設住宅入居者支援などについて各団体がどのような支援を行っているか、活動報告を行い、情報の共有化を図った。

協議では、仮設住宅の支援活動実態把握、活動の地区担当制導入、見守り活動の際のガイドライン、民生委員との連携など被災者ケアの取り組み、今後予想される仮設住宅での問題をどのように解決していくか意見交換した。

この中で、民生委員からは「どこに誰が入居しているのか、プライバシー保護で分からず、大船渡アクション・定例ネットワーク会議」

「仮設住宅に300世帯入っても民生委員がいらない」「行政的組織がなく、かつての町内会、班割りが機能しなくなった」など、課題が寄せられた。ほかの民生委員からは、表札がないところが多く、見守り活動ができないことや、「買い物難民」の支援策を求める声もあった。

支援団体からは、「一本当に困っている人と、そうでない人の判断が難しく、ボランティア疲れにつながっている」といった意見も出た。

次回、21日(木)に在宅被災者のフォローの仕方などをテーマに協議を深める。

流通復興へ支援品

大船渡魚市場で引渡式

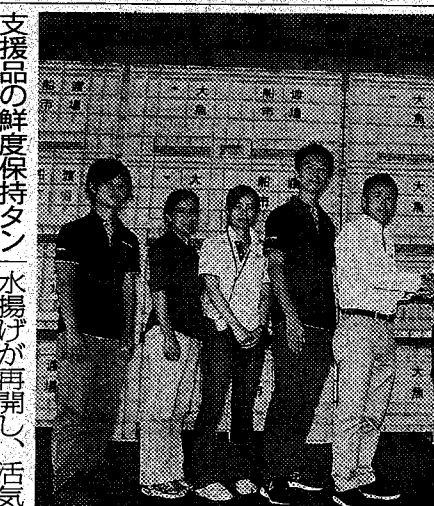
PWJから

認定NPO法人・ピースウィンズジャパン(PWJ)による大船渡魚市場への支援品(引渡式)は15日、同魚市場で開かれた。同市場では定置網の水揚げが本格化しており、魚市場関係者は品質管理に欠かせない物品寄贈に感謝を寄せていた。

引渡式には、PWJの東北事業・現地事業責任者を務める備中哲人さん、魚市場の菅野佑三社長、市役所水産課の千葉英彦課長らが出席。菅野社長は「魚市場の信用調査機件となったものの、全24件と前年比で9件減

今回の支援は、水揚げが再開し、活気が戻りつつある。支援品の鮮度保持タンクを前に記念撮影を行う関係者。大船渡町

経済復興の一環として流通機能の回復を図ろうと、魚市場再開に向けた支援を展開。魚市場では今月以降、気仙沿岸での定置網からの



支援品の鮮度保持タンクを前に記念撮影を行う関係者。大船渡町

過去10年間で最少

23年上半期 前年比9件減の29件 県内

県内

「震災による経済の長期停滞によって間接的に破綻する企業が増えつつあることは事実」

【結婚】太田さん、菊さん、赤崎町字

【死亡】郎さん(吉沢字向木四郎、根町字上新沼久美)

【その他】